

南丹教育局NEWS

環境・食育パートナーズクール事業



南丹教育局では、中学校と高等学校が連携し、地域の教育資源を活かした取組を通して明日の「京都丹波」を担う人づくりの推進を図るため、「環境・食育校種間連携パートナーズクール事業」を実施しています。

中学生は身近な先輩から直接学ぶことで将来に対する興味や関心を高め、また、高校生は中学生への指導を通して日々の学習への自信や誇りを育みます。校種の違いを越えた連携を通して、「つながる学び」に取り組んでいます。

テーマ「京丹波町の資源を生かした、京丹波町ならではの挑戦」

令和7年11月14日(金)、京都府立須知高等学校において、京丹波町の瑞穂中学校及び和知中学校の1年生と須知高等学校食品科学科の3年生が交流しました。

事前学習として、高校の教員が両中学校を訪問し、「京丹波町にある地域資源の紹介」や「須知高校が取り組む未利用資源の活用」について講義を行いました。

当日は、中学生と高校生が、「農産加工」、「乳肉加工」、「生物活用」の3つのグループに分かれ高校で採れた食材や資源を活用し、体験学習を行いました。

農産加工：ピザづくり体験

農産加工グループでは、高校で栽培された野菜やバジル、チーズを使ったピザづくりを通して農産物の活用方法について学びました。

中学生は高校生にお手本を見せてもらいながらわかりやすく教えてもらった内容をもとに生地をきれいな円形にし、彩りよく野菜を盛り付け、最後は窯で焼き上げました。

体験中は、中学生がたくさん用意された野菜を見て、この野菜はどのように育てるのかなど高校生と積極的に交流していました。



乳肉加工：チーズ製造

乳肉加工グループでは、チーズ作りを通して、乳製品がどのようにしてできるのか、その仕組みについて学びました。

中学生が「モッツァレラチーズ」と「string cheese」の2種類の製造を高校生に教えてもらいながら実演しました。

中学生は熱湯を入れたボウルの中で混ぜたり伸ばしたりを繰り返しながら形を整え、完成後は高校生とともに試食を行いました。



生物活用：竹の活用

生物活用グループでは、廃棄される竹を使った作品づくりを通して、資源の再利用について学びました。

今年の干支に合わせて「馬」を制作しました。

中学生は、ノコギリで竹を胴体、首、顔、耳などいろいろな大きさに切断する作業やグルーガンで接着する作業に苦戦しましたが、高校生が日頃の経験を活かし、中学生の作品づくりをサポートしました。



交流後の取組

交流後は、高校生から学んだ内容をもとに、グループ又は個人で京丹波町の資源を活かす方法などについて探究活動を進めました。

令和8年1月17日(土)には、須知高等学校食品科学科の課題研究発表会が開催され、中学生の代表が「京丹波の食材×廃棄される食材＝SDGs」「特産品を知ってもらうために」「京丹波町に京丹波町の木を使ってバッティングセンターをつくる」の3テーマについて発表を行いました。当日は、畠中町長をはじめ、地域住民や地元企業の方々が見守る中、自らの考察や中学生ならではのアイデアを披露しました。



事業を終えて・・・

本事業を通じて、中学生は高校生から多くを学び、地域資源への理解を深めることができました。また、高校生にとっても、中学生を支える経験が自信につながりました。探究活動や成果発表会を通じて得た気づきは、生徒一人ひとりの成長につながるだけでなく、京丹波町について考える良い機会となりました。

南丹教育局NEWS 第300号発行を迎えて

平成23年6月14日に第1号を発行してから、今回で第300号の発行となりました。

これからも、学校現場に寄り添う広報を大切にしながら、南丹地域ならではの取組を発信し、各学校の活動を支援していきます。

今後とも変わらぬご愛読をいただけましたら幸いです。



南丹教育局では、南丹地域の市町教育委員会や幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校の取組を支援するとともに、地域ならではの教育振興に取り組んでいます。ぜひ、ホームページをご覧ください！！

南丹教育局

